



■特集

バスが消える日。

ぼく、バスで学校に通っています。

いま全国各地で、地方路線バスの姿が消えようとしています。

現代社会では、自家用車が大眾に広く普及され、個人が自由に移動することができるようになりました。

そうした中、公共交通機関として広く利用してきた路線バスの利用者は減少し、路線バスの経営状況を悪化させています。そのため、バス会社は、地方を走る不採算路線からの撤退を余儀なくされています。

普段、日常生活に欠かせなくなった自家用車を利用する私たちにあって、路線バスの撤退は、あまり身近な問題として考えられないかも知れません。

しかし、車を持たない、車に乗れない高齢者や通学生にとって、バスはかけがえのない交通手段です。バスに乗って病院に通い、買い物をする。学校へ通学するためバスに乗る。路線バスは、まさにライフライン、生命線なのです。声に出して言えない高齢者や通学生のバス存続への願いがあります。

私たちの町を走る路線バスについて、みんなで考えてみましょう。